



# 博多港・福岡空港の概況

令和6年9月  
福岡市港湾空港局

# = 目 次 =

## 第1章 博多港の物流

1. 国際海上コンテナ取扱個数（TEU ベース） … P.1  
(1) 国際海上コンテナ取扱個数の推移  
(2) 令和5年の取扱個数増加の主な要因  
(3) 貨物の内訳  
【参考：国内主要港との比較（令和4年）】
2. 国際海上コンテナ定期航路と寄港地 … P.4
3. 海上出入貨物（トンベース） … P.5  
(1) 海上出入貨物量の推移  
(2) 令和5年の貨物量増減の主な要因  
(3) 外国貿易  
(4) 内国貿易

## 第2章 博多港の人流

1. 船舶乗降人員 … P.9  
(1) 船舶乗降人員の推移
2. うち外国航路船舶乗降人員 … P.10  
(1) 外国航路船舶乗降人員の推移  
【参考：国内上位5港の推移】
3. クルーズ船の寄港回数 … P.10  
(1) クルーズ船の寄港回数の推移

## 第3章 博多港の入港船舶

1. 入港隻数及び総トン数 … P.11  
(1) 入港隻数及び総トン数の推移

## 第4章 福岡空港の概況

1. 乗降客数 … P.13  
(1) 乗降客数の推移  
【参考：国内主要空港との比較（令和5年度）】
2. 貨物取扱量 … P.14  
(1) 貨物取扱量の推移  
【参考：国内主要空港との比較（令和5年度）】
3. 発着回数 … P.15  
(1) 発着回数の推移  
【参考：国内主要空港との比較（令和5年度）】
4. 路線状況 … P.16

# 第1章 博多港の物流

## 1. 国際海上コンテナ取扱個数（TEU ベース）

【令和5年港湾統計確定値】

**取扱個数：約90万6千TEU**

外貿ダイレクト：約83万2千TEU、内貿フィーダー：約7万4千TEU

### (1) 国際海上コンテナ取扱個数の推移

令和5年の国際海上コンテナ取扱個数は、輸移出入ともに増加している。

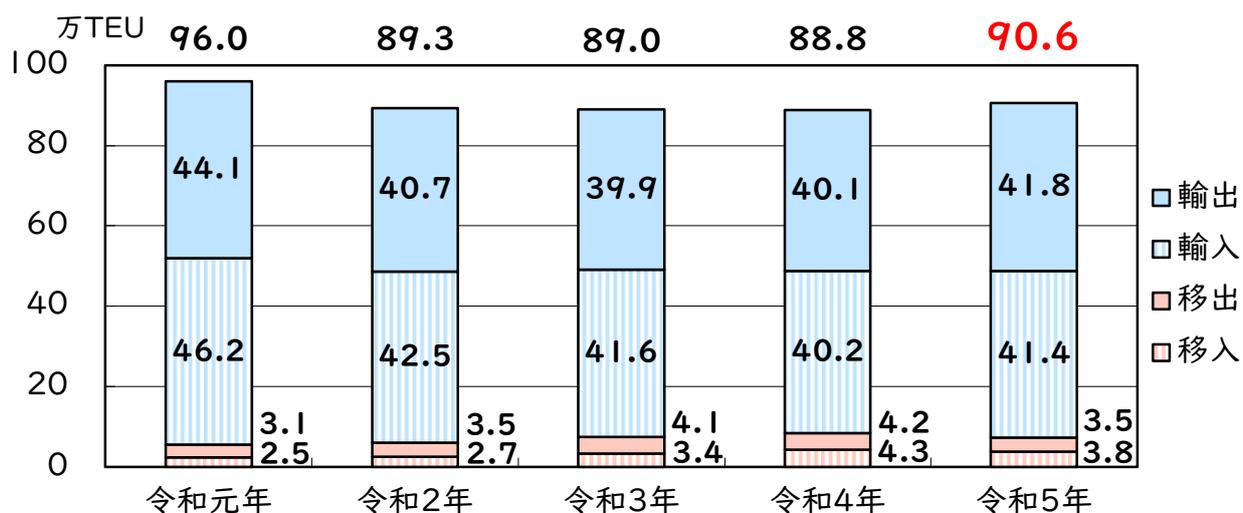
【表 1-1】

(単位:TEU)

区 分	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	増減(R5/R4)	
					数量	数量	前年比
博多港全体	960,085	893,301	890,026	887,734	905,678	17,944	102.0%
輸移出	472,708	441,499	439,944	442,862	453,563	10,701	102.4%
輸移入	487,377	451,802	450,082	444,872	452,115	7,243	101.6%
うち外貿ダイレクト	903,566	832,133	814,998	802,378	832,091	29,713	103.7%
輸出	441,367	406,913	398,554	400,796	418,187	17,391	104.3%
輸入	462,199	425,220	416,444	401,582	413,904	12,322	103.1%
うち内貿フィーダー	56,519	61,168	75,028	85,356	73,587	▲11,769	86.2%
移出	31,341	34,586	41,390	42,066	35,376	▲6,690	84.1%
移入	25,178	26,582	33,638	43,290	38,211	▲5,079	88.3%

※TEU…コンテナを数えるときの単位で、20フィートコンテナ換算個数

【グラフ 1-1】



### (2) 令和5年の取扱個数増加の主な要因

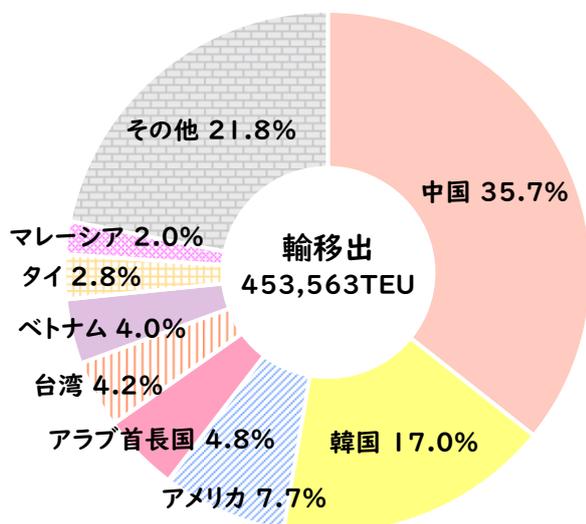
輸移出…完成自動車（前年比+2万7千TEU）や再利用資材（同+5千TEU）の増加等  
 輸移入…自動車部品（同+5千TEU）や産業機械（同+2千TEU）の増加等

### (3) 貨物の内訳

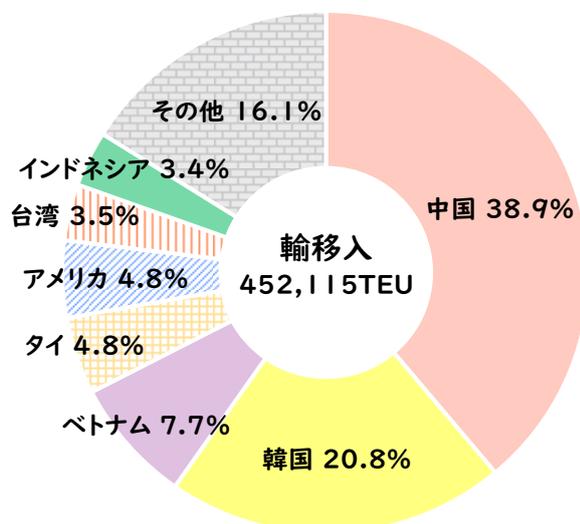
#### ① 相手国別

輸移出入ともに、中国や韓国、台湾などの東アジア地域が全体の約6割を占めている。

【グラフ 1-2】



【グラフ 1-3】



#### ② 主要取扱品種

輸移出では、主に北米や中近東向けを中心とする「ゴム製品（タイヤ等）」や「完成自動車（中古車）」「自動車部品」など、自動車関連産業貨物が上位に挙がる。

輸移入では、主にアジア諸国からの「家具装備品」や「衣服・身廻品・はきもの（衣類関係）」「電気機械」など、生活物資が上位を占めている。

【表 1-2】

(単位:TEU)

輸 移 出					
順位	品種	取扱個数	主な輸出相手国		
1	ゴム製品	45,662	アメリカ	アラブ首長国	韓国
2	完成自動車	※ 45,525	アラブ首長国	中国	南アフリカ
3	再利用資材	21,169	ベトナム	台湾	韓国
4	自動車部品	20,324	韓国	アラブ首長国	アメリカ
5	産業機械	18,071	中国	アメリカ	韓国
6	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	16,396	中国	韓国	台湾
7	取合せ品	11,856	ドイツ	オランダ	アメリカ
8	飲料	9,180	韓国	台湾	中国
9	二輪自動車	8,841	イタリア	フランス	アメリカ
10	化学薬品	7,623	中国	韓国	台湾

【表 1-3】

(単位:TEU)

輸 移 入					
順位	品種	取扱個数	主な輸入相手国		
1	家具装備品	45,406	中国	ベトナム	タイ
2	衣服・身廻品・はきもの	32,692	中国	ベトナム	台湾
3	動植物性製造飼肥料	29,686	アメリカ	韓国	オーストラリア
4	電気機械	27,518	中国	タイ	中国(ホンコン)
5	自動車部品	26,234	ベトナム	中国	韓国
6	製造食品	24,266	中国	タイ	韓国
7	金属製品	15,408	中国	韓国	ベトナム
8	その他日用品	15,080	中国	韓国	インドネシア
9	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	15,074	中国	韓国	台湾
10	水産品	14,451	韓国	中国	インドネシア

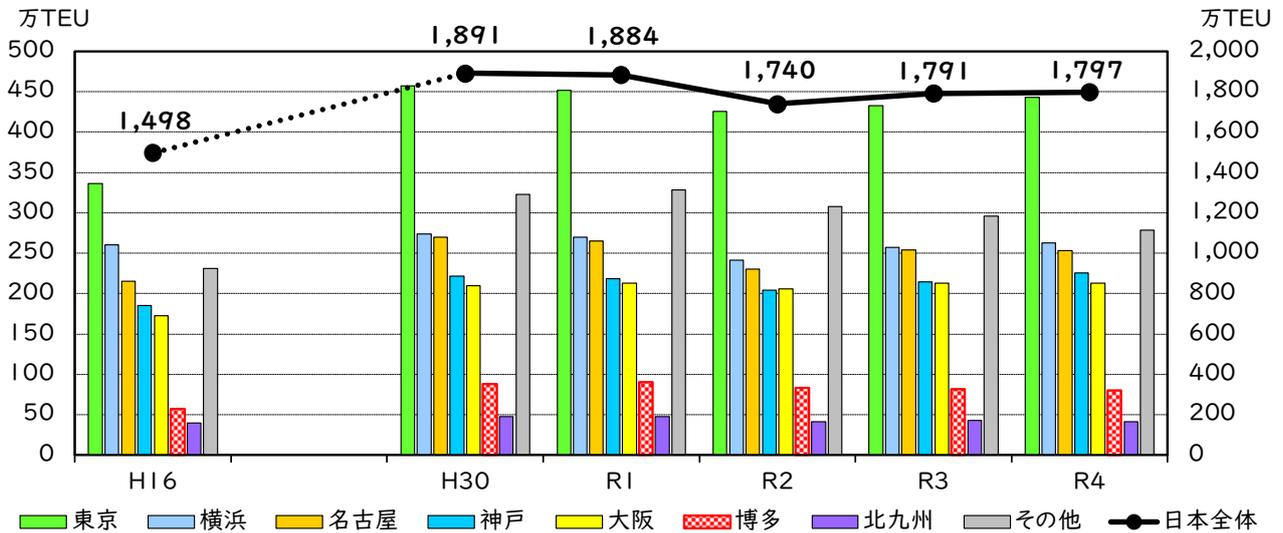
※ 普通・小型乗用車約 91,000 台分に相当

【参考：国内主要港との比較（令和4年）】 国土交通省「港湾統計（年報）」より

### ① 外貿コンテナ取扱個数の推移と博多港のシェア

国内で輸出入される外貿コンテナの5%弱を博多港で取り扱っている。

【グラフ 1-4】



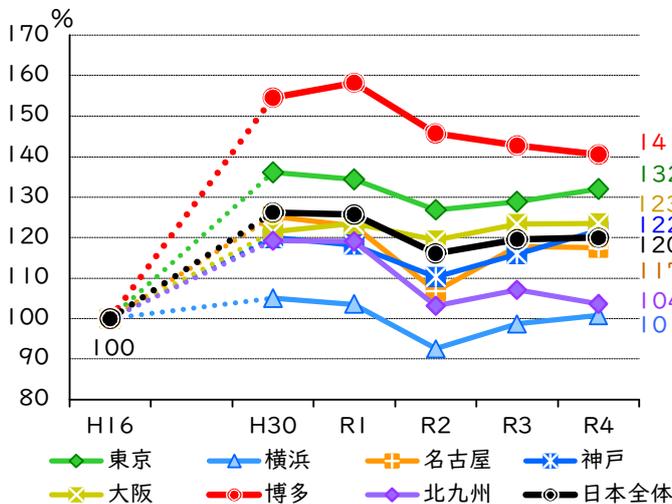
令和4年の港ごとの外貿コンテナ取扱個数は、多い順に、東京、横浜、名古屋、神戸、大阪、博多、北九州となっている。

年	H30	R1	R2	R3	R4
博多港のシェア	4.7%	4.8%	4.8%	4.6%	4.5%

### ② 国内主要港の外貿コンテナ増加率

博多港の取扱いは、日本全体や国内主要港よりも高い増加率で推移している。

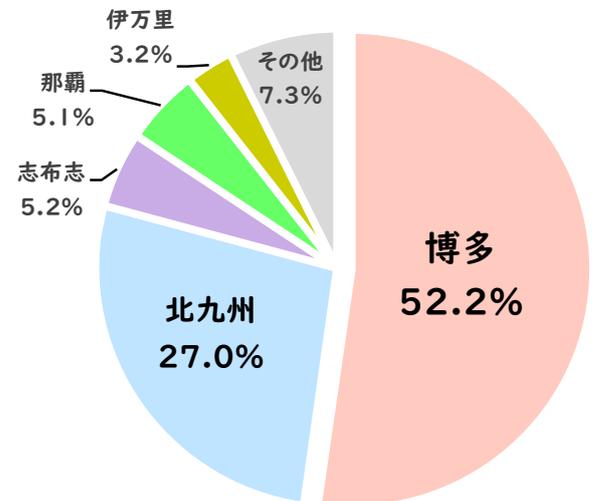
【グラフ 1-5】



### ③ 九州域内の取扱シェア

九州域内で取り扱われている外貿コンテナ貨物の約5割が、博多港を利用している。

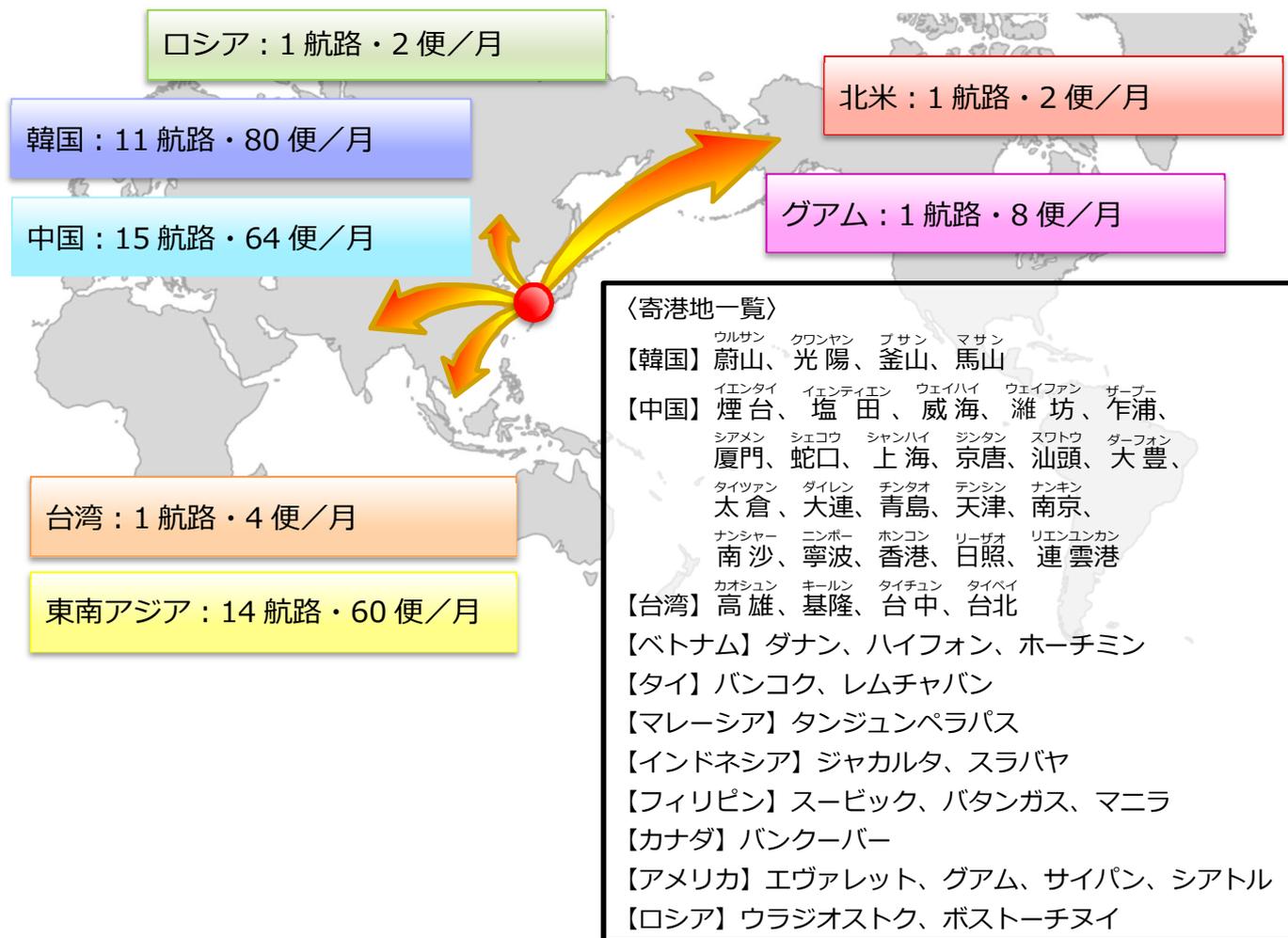
【グラフ 1-6】



## 2. 国際海上コンテナ定期航路と寄港地

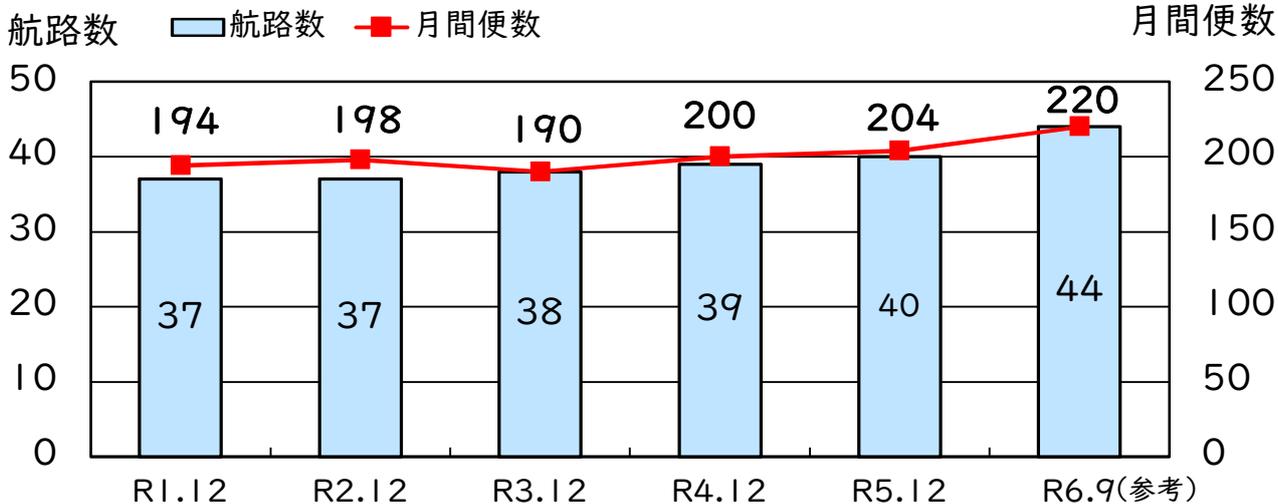
(令和6年9月1日現在)

### 44 航路・月間 220 便 (11 カ国・地域、47 港とのコンテナ物流網を形成)



### ■ 国際コンテナ定期航路の航路数・便数の推移

【グラフ 2】



### 3. 海上出入貨物（トンベース）

【令和5年港湾統計確定値】

**貨物量：約 3,240 万トン**

外国貿易：約 1,803 万トン、内国貿易：約 1,437 万トン

#### (1) 海上出入貨物量の推移

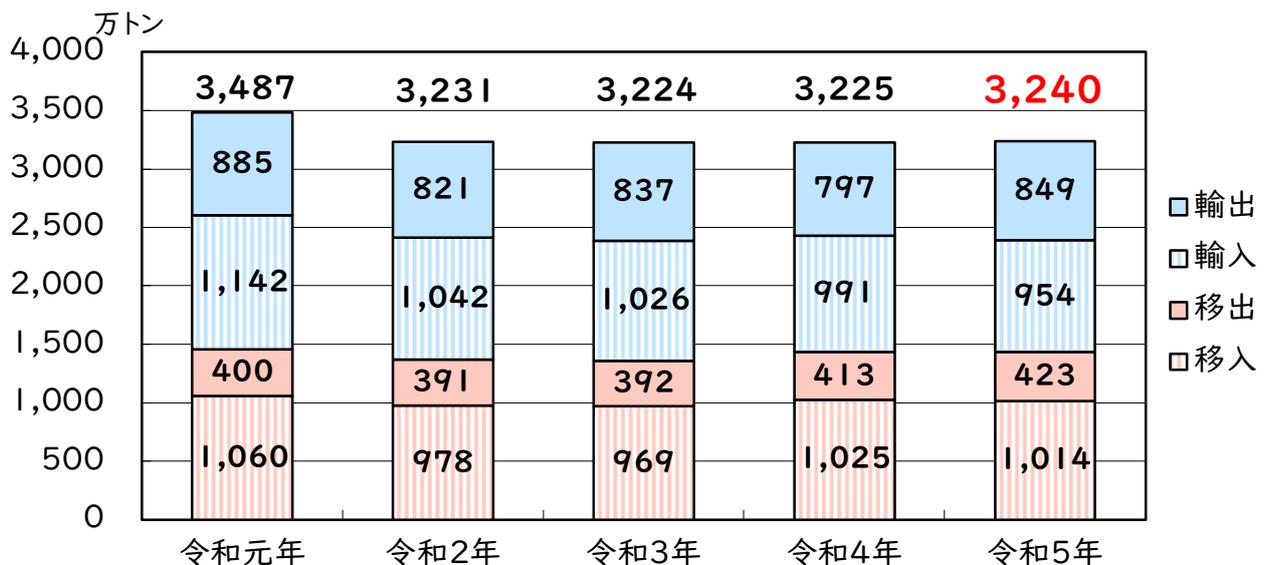
近年は 3,000 万トン台前半で推移しているが、令和5年の輸移出は前年より増加、輸移入は前年より減少しており、全体では令和4年より増加している。

【表 3-1】

(単位:トン)

区 分	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	増減 (R5/R4)	
					数量	数量	前年比
博多港全体	34,869,325	32,313,714	32,242,372	32,253,371	32,398,177	144,806	100.4%
輸移出	12,852,443	12,119,745	12,291,901	12,096,797	12,718,039	621,242	105.1%
輸移入	22,016,882	20,193,969	19,950,471	20,156,574	19,680,138	▲ 476,436	97.6%
うち外国貿易	20,275,931	18,624,587	18,625,360	17,880,503	18,031,190	150,687	100.8%
輸出	8,854,988	8,205,787	8,368,395	7,970,800	8,489,366	518,566	106.5%
輸入	11,420,943	10,418,800	10,256,965	9,909,703	9,541,824	▲ 367,879	96.3%
うち内国貿易	14,593,394	13,689,127	13,617,012	14,372,868	14,366,987	▲ 5,881	100.0%
移出	3,997,455	3,913,958	3,923,506	4,125,997	4,228,673	102,676	102.5%
移入	10,595,939	9,775,169	9,693,506	10,246,871	10,138,314	▲ 108,557	98.9%

【グラフ 3-1】



#### (2) 令和5年の貨物量増減の主な要因

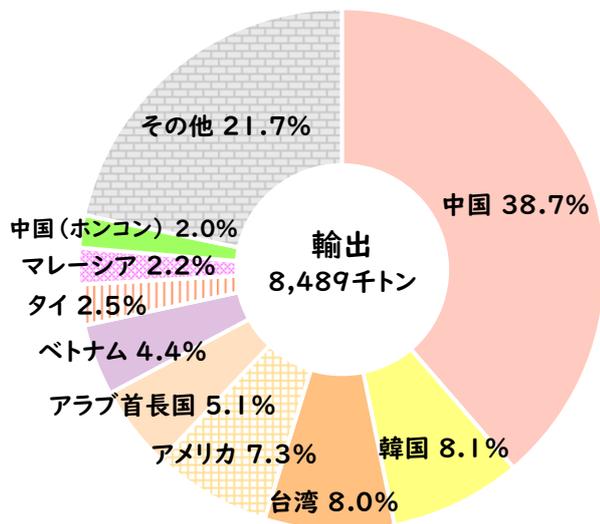
輸移出…完成自動車（前年比+61.0万トン）や飲料（同+13.3万トン）の増加等  
 輸移入…家具装備品（同▲20.1万トン）や動植物性製造飼肥料（同▲15.7万トン）の減少等

### (3) 外国貿易 【18,031千トン】

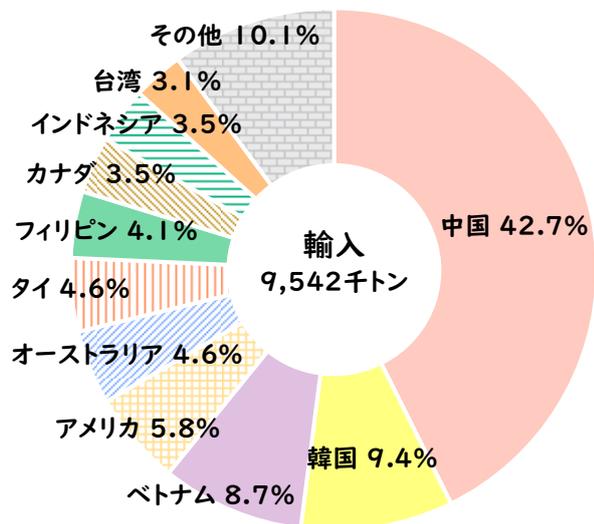
#### ① 相手国別

輸出入ともに、中国や韓国、台湾などの東アジア地域が全体の約6割を占めている。

【グラフ 3-2】



【グラフ 3-3】



#### ② 主要取扱品種

輸出では、中国をはじめとするアジアや北米、中近東向けを中心とする「完成自動車」や「ゴム製品（タイヤ等）」「自動車部品」など、自動車関連産業貨物が上位に挙がる。

輸入では、主にアジア諸国からの「家具装備品」や「衣類・身廻品・はきもの（衣類関係）」「電気機械」など、生活物資が上位を占めている。

【表 3-2】

(単位:千トン)

輸 出					
順位	品種	取扱量	主な輸出相手国		
1	完成自動車	※ 4,301	中国	台湾	アラブ首長国
2	ゴム製品	944	アメリカ	アラブ首長国	メキシコ
3	産業機械	416	台湾	中国	ベトナム
4	再利用資材	390	ベトナム	台湾	韓国
5	自動車部品	321	アラブ首長国	マレーシア	韓国
6	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	292	中国	台湾	韓国
7	二輪自動車	210	イタリア	フランス	スペイン
8	飲料	192	韓国	台湾	中国
9	取合せ品	174	中国	オーストラリア	アメリカ
10	化学薬品	160	中国	韓国	台湾

【表 3-3】

(単位:千トン)

輸 入					
順位	品種	取扱量	主な輸入相手国		
1	家具装備品	1,239	中国	ベトナム	タイ
2	衣服・身廻品・はきもの	742	中国	ベトナム	台湾
3	電気機械	617	中国	タイ	中国(ホンコン)
4	麦	563	オーストラリア	カナダ	アメリカ
5	野菜・果物	528	フィリピン	中国	韓国
6	動植物性製造飼料	504	オーストラリア	韓国	アメリカ
7	自動車部品	496	ベトナム	中国	インドネシア
8	製造食品	460	中国	タイ	韓国
9	その他日用品	376	中国	インドネシア	韓国
10	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	294	中国	台湾	韓国

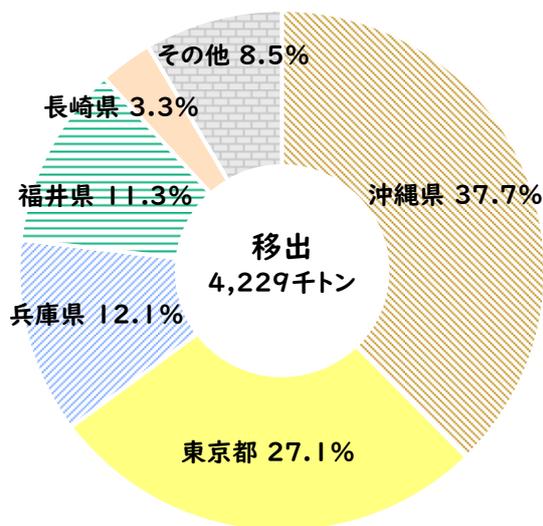
※ 普通・小型乗用車約 430,000 台分に相当

#### (4) 内国貿易 【14,367千トン】

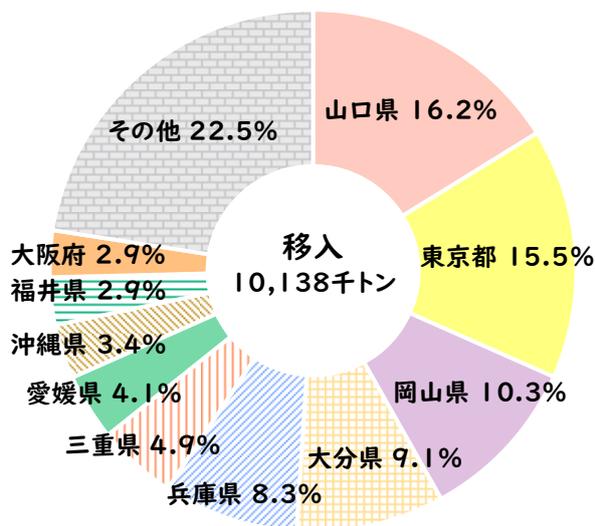
##### ① 相手都道府県別

移出においては、定期航路を有する沖縄県や東京都との取引が多く、また、移入においては、定期航路を有する東京都のほか、山口県、岡山県など石油製品を取扱う港との取引が多い状況となっている。

【グラフ 3-4】



【グラフ 3-5】



##### ② 主要取扱品種

移出では、「取合せ品（小口混載貨物等）」や「完成自動車」など、取扱品種が多岐に渡っており、主に、定期航路を有する沖縄県や東京都に移出されている。

移入では、「その他の石油（軽油、航空燃料油など）」や「揮発油（ガソリンなど）」などの燃料系貨物、「砂利・砂」や「セメント」「鋼材」などの建築資材、「完成自動車」が上位を占めている。

【表 3-4】

(単位:千トン)

移出					
順位	品種	取扱量	主な移出相手都道府県		
1	取合せ品	827	沖縄県	東京都	兵庫県
2	完成自動車	※1 582	東京都	沖縄県	福井県
3	その他輸送機械	569	福井県	東京都	兵庫県
4	飲料	254	沖縄県	長崎県	兵庫県
5	製造食品	249	沖縄県	長崎県	兵庫県
6	その他日用品	188	沖縄県	長崎県	兵庫県
7	鋼材	167	沖縄県	福井県	兵庫県
8	ゴム製品	150	兵庫県	福井県	東京都
9	麦	143	香川県	沖縄県	神奈川県
10	とうもろこし	109	福岡県	鹿児島県	広島県

※1 普通・小型乗用車約 58,000 台分に相当

【表 3-5】

(単位:千トン)

移入					
順位	品種	取扱量	主な移入相手都道府県		
1	その他の石油	1,835	山口県	大分県	岡山県
2	砂利・砂	1,638	海上採取	長崎県	兵庫県
3	揮発油	1,617	岡山県	山口県	大分県
4	完成自動車	※2 1,332	東京都	三重県	沖縄県
5	セメント	546	山口県	福岡県	福井県
6	鋼材	400	岡山県	大阪府	兵庫県
7	取合せ品	355	東京都	沖縄県	福井県
8	動植物性製造飼肥料	296	兵庫県	福井県	岡山県
9	米	201	東京都	福井県	-----
10	石灰石	187	山口県	大分県	-----

※2 普通・小型乗用車約 133,000 台分に相当

## 博多港のコンテナ物流について

### <令和5年の国際海上コンテナ貨物動向>

【令和5年港湾統計確定値】

#### ◆国際海上コンテナ取扱個数

(単位：TEU)

区分	令和4年	令和5年	増減数	増減率
博多港全体	887,734	905,678	+17,944	+2.0%
実入り	639,014	649,184	+10,170	+1.6%
空	248,720	256,494	+7,774	+3.1%
輸移出	442,862	453,563	+10,701	+2.4%
実入り	230,992	257,727	+26,735	+11.6%
空	211,870	195,836	▲16,034	▲7.6%
輸移入	444,872	452,115	+7,243	+1.6%
実入り	408,022	391,457	▲16,565	▲4.1%
空	36,850	60,658	+23,808	+64.6%

#### ◆輸移出における主な増加品目

(単位：TEU)

品目名	令和4年	令和5年	増減数	増減率
完成自動車	18,521	45,525	+27,004	+145.8%
再利用資材	16,275	21,169	+4,894	+30.1%
飲料	5,660	9,180	+3,520	+62.2%

#### ◆輸移入における主な増加品目

(単位：TEU)

品目名	令和4年	令和5年	増減数	増減率
自動車部品	21,457	26,234	+4,777	+22.3%
産業機械	9,867	11,764	+1,897	+19.2%
水産品	12,698	14,451	+1,753	+13.8%

#### ◆博多港の集荷対策について

博多港の強みを活かし、博多港における国際海上コンテナ取扱量のシェアが高い「東アジア」の貨物や、近年、増加が顕著な「東南アジア」の貨物を中心に集荷活動に取り組む。アジアの貨物については、九州内の港で輸出入されている貨物だけでなく、更なる集荷のため、九州からの流出貨物や、九州域外の貨物についても対象を広げ、積極的に集荷活動に取り組む。

## 第2章 博多港の人流

### 1. 船舶乗降人員

【令和5年港湾統計確定値】

**乗降人員：約124万3千人**

外国航路：約34万人、内国航路：約90万2千人

#### (1) 船舶乗降人員の推移

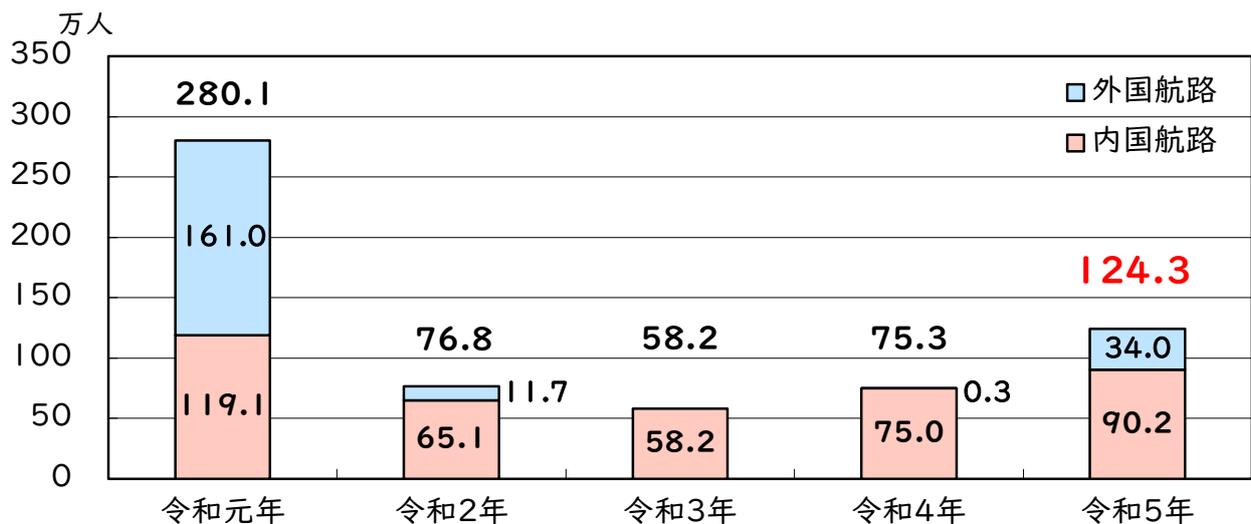
外国航路・内国航路とも、新型コロナウイルス感染症の影響による人の移動の制限等が緩和されたことにより、前年より増加している。

【表1】

(単位：人)

区分	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	増減(R5/R4)	
					人数	人数	前年比
博多港全体	2,800,804	767,927	581,889	753,004	1,242,516	489,512	165.0%
うち外国航路	1,609,678	116,901	0	3,465	340,171	336,706	9817.3%
うち内国航路	1,191,126	651,026	581,889	749,539	902,345	152,806	120.4%

【グラフ1】



## 2. うち外国航路船舶乗降人員

【令和5年港湾統計確定値】

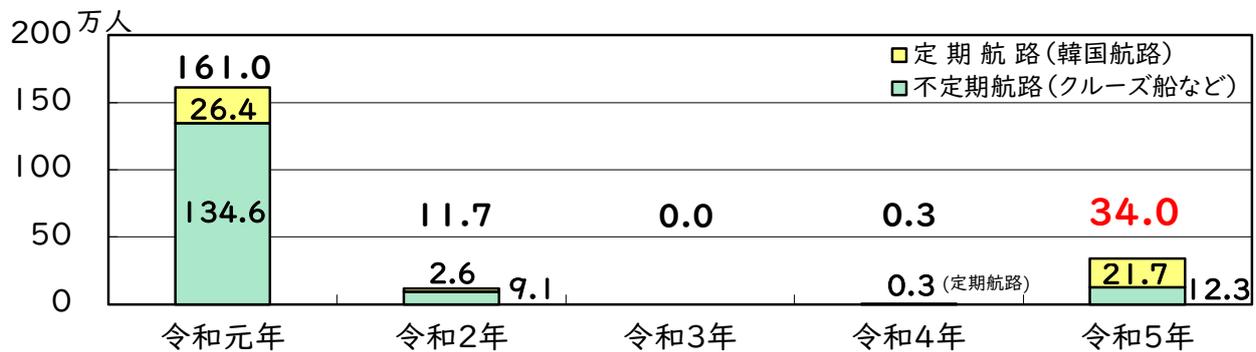
**乗降人員：約34万人**

### (1) 外国航路船舶乗降人員の推移

定期航路については、令和4年11月の再開以降、順調に推移。

不定期航路（クルーズ船）については、令和5年3月の国際クルーズの運航再開により皆増。

【グラフ2】



## 3. クルーズ船の寄港回数

【令和5年港湾統計確定値】

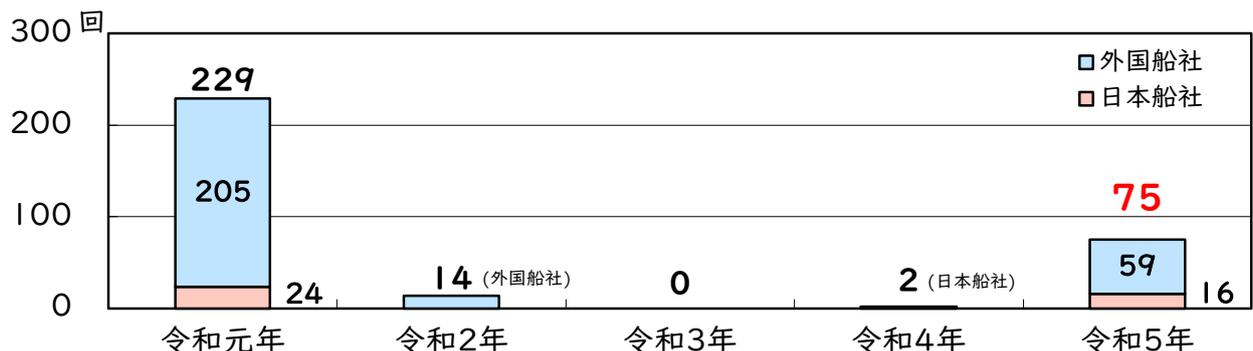
**寄港回数：75回**

外国船社：59回、日本船社：16回

### (1) クルーズ船の寄港回数の推移

新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、令和2年3月以降のクルーズ船の寄港がなかったが、令和4年11月から国内クルーズが寄港再開、令和5年3月から国際クルーズが寄港再開したことによる皆増。

【グラフ3】



# 第3章 博多港の入港船舶

## 1. 入港隻数及び総トン数

【令和5年港湾統計確定値】

**入港隻数：24,586隻**

**総トン数：約5,769万総トン**

外国航路：3,208隻・約3,806万総トン、内国航路：21,378隻・約1,963万総トン

### (1) 入港隻数及び総トン数の推移

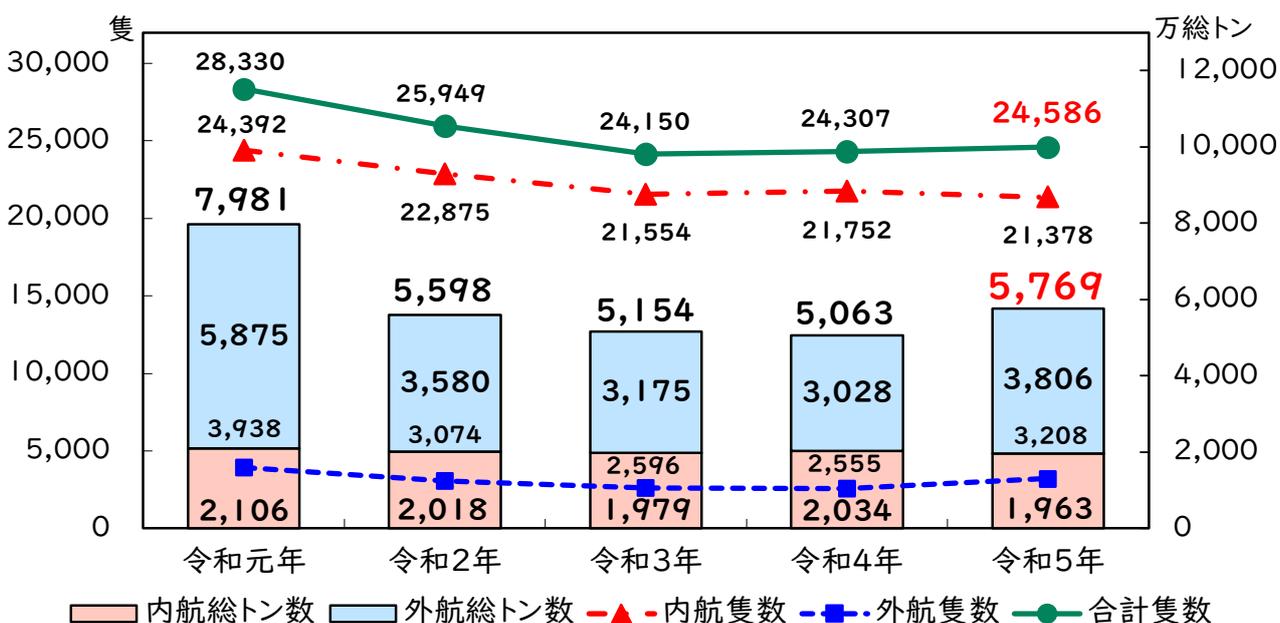
令和5年はフルコンテナ船や客船等の増加により、入港隻数、総トン数ともに増加している。

【表1】

(単位：隻、総トン)

区 分	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	増減(R5/R4)	
					数量	数量	前年比
入港隻数	28,330	25,949	24,150	24,307	24,586	279	101.1%
うち外国航路	3,938	3,074	2,596	2,555	3,208	653	125.6%
うち内国航路	24,392	22,875	21,554	21,752	21,378	▲ 374	98.3%
総トン数	79,805,066	55,983,314	51,540,787	50,627,385	57,693,783	7,066,398	114.0%
うち外国航路	58,748,120	35,802,548	31,750,203	30,284,868	38,059,362	7,774,494	125.7%
うち内国航路	21,056,946	20,180,766	19,790,584	20,342,517	19,634,421	▲ 708,096	96.5%

【グラフ1】



# 市営渡船の経営状況

## 1. 航路概要図



### 主な使用船舶



## 2. 航路別収支

(単位：千円)

区分		令和5年度 決算 (見込み)				
		志賀島	能古	玄界島	小呂島	合計
歳入	運賃収入等	84,358	238,801	50,976	21,593	395,728
	国・県補助金	0	0	120,651	80,795	201,446
	計	84,358	238,801	171,627	102,388	597,174
歳出	運航経費	408,896	371,538	293,967	156,624	1,231,025
	運航収支	▲ 324,538	▲ 132,737	▲ 122,340	▲ 54,236	▲ 633,851
公債費 (市債償還分) 等		29,869	44,760	50,018	3,724	128,371
繰入金		354,407	177,497	172,358	57,960	762,222

## 3. 渡船の利用状況の推移

(単位 人)

区分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度
乗 客 人 員	志賀島航路	184,002	186,931	107,738	118,422	149,569	176,988
	能古航路	836,751	838,255	586,078	601,453	657,822	699,162
	玄界島航路	74,542	71,083	53,227	52,112	60,396	64,265
	小呂島航路	9,661	9,376	7,691	7,277	8,159	8,573
	合計	1,104,956	1,105,645	754,734	779,264	875,946	948,988
	対前年度比	106.6%	100.1%	68.3%	103.3%	112.4%	108.3%

## 第4章 福岡空港の概況

### 1. 乗降客数

【令和5年度確定値】

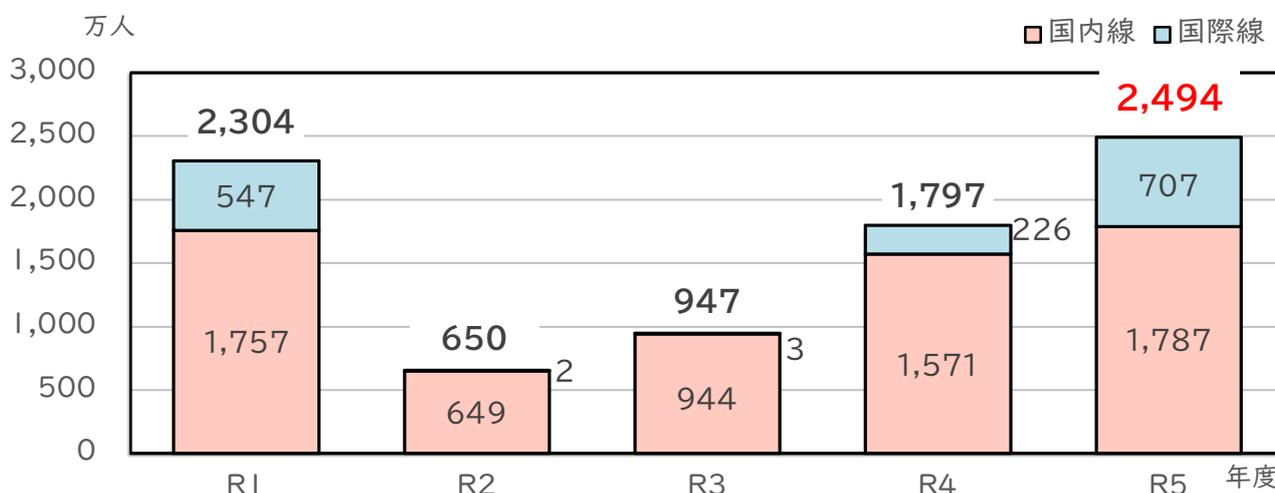
**乗降客数：約 2,494 万人**

国際線：約 707 万人 国内線：約 1,787 万人

#### (1) 乗降客数の推移 国土交通省「空港管理状況調査」より

好調なインバウンドにより国際線の乗降客数が過去最高を更新し、国際線及び国内線の乗降客総数も過去最高を更新した。

【グラフ 1-1】

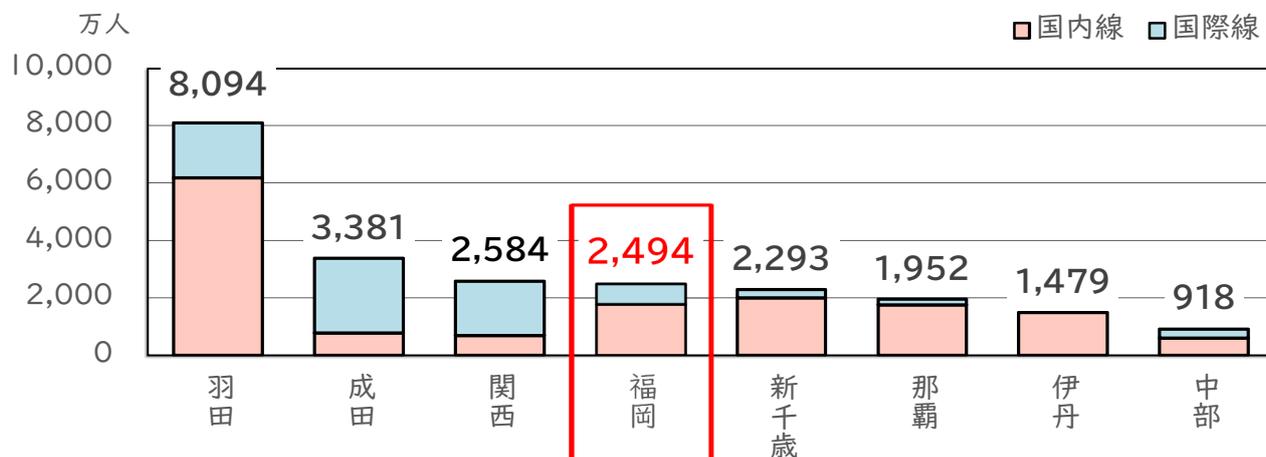


#### 【参考：国内主要空港との比較（令和5年度）】

国土交通省「空港管理状況調査」より

福岡空港の乗降客数は国内第4位である。

【グラフ 1-2】



## 2. 貨物取扱量

【令和5年度確定値】

**貨物取扱量：約 14 万 8 千トン**

国際線：約 3 万トン 国内線：約 11 万 8 千トン

### (1) 貨物取扱量の推移 国土交通省「空港管理状況調書」より

国際線・国内線ともに前年度と同程度となっている。

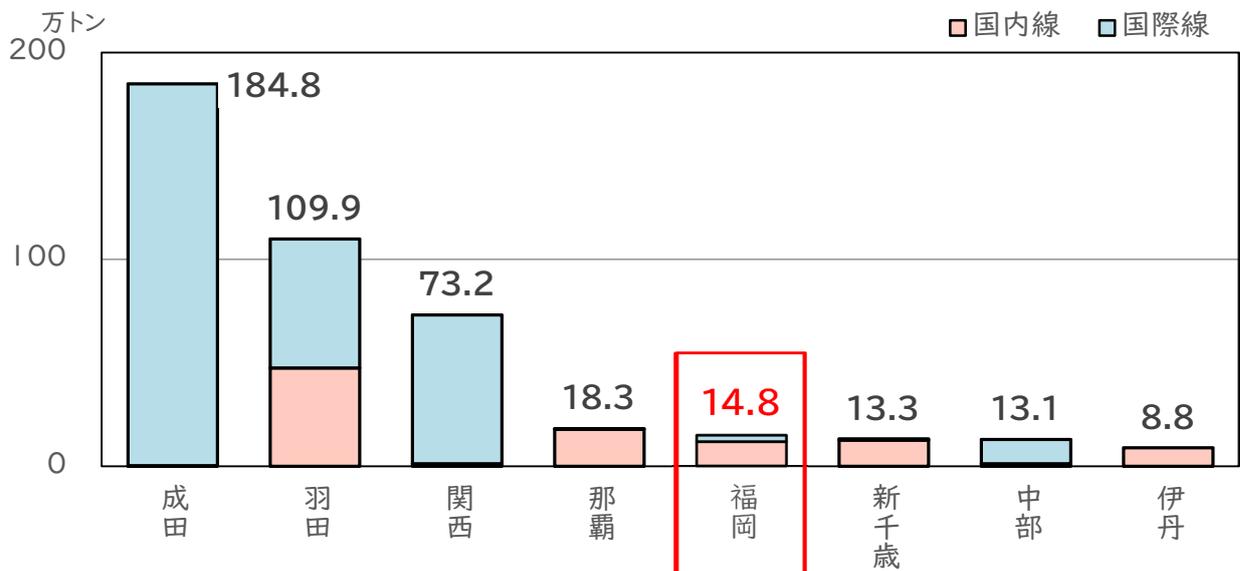
【グラフ 2-1】



### 【参考：国内主要空港との比較（令和5年度）】 国土交通省「空港管理状況調書」より

福岡空港の貨物取扱量は国内第5位である。

【グラフ 2-2】



### 3. 発着回数

【令和5年度確定値】

**発着回数：約18万5千回**

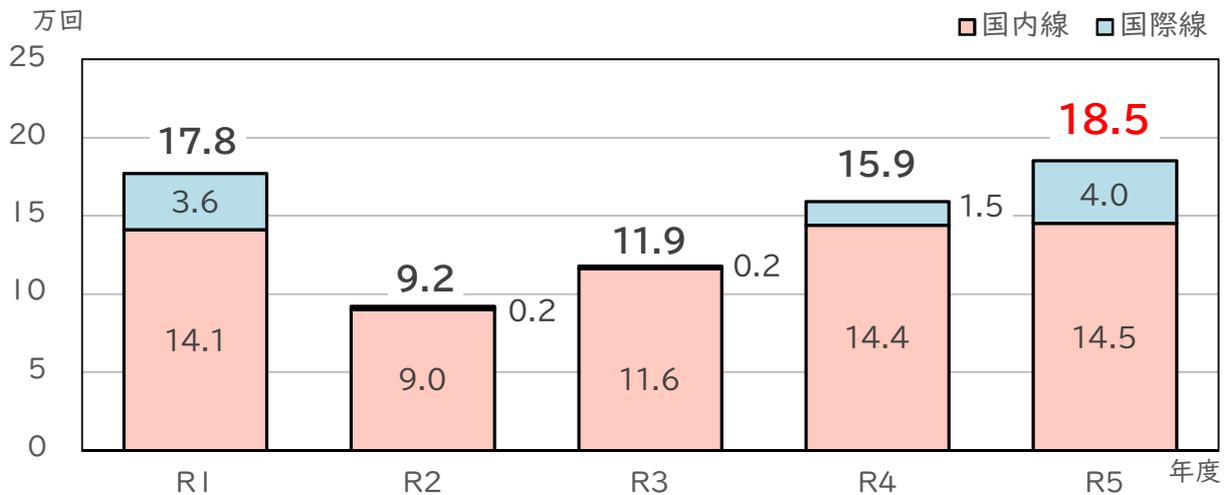
国際線：約4万回

国内線：約14万5千回

#### (1) 発着回数の推移 国土交通省「空港管理状況調書」より

国際線は復便や増便が進み、国内線は過去最高となり、国際線及び国内線の発着総数も過去最高を更新した。

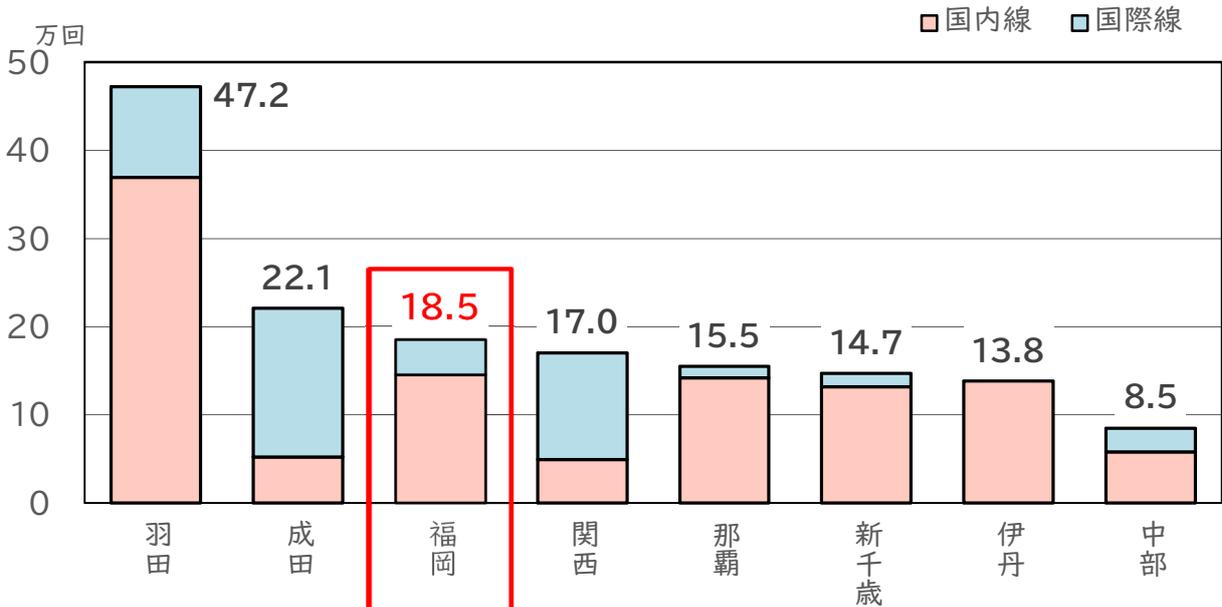
【グラフ3-1】



#### 【参考：国内主要空港との比較（令和5年度）】 国土交通省「空港管理状況調書」より

福岡空港の発着回数は国内第3位である。

【グラフ3-2】



## 4. 路線状況

令和6年9月現在で、路線数は国際線が24路線、国内線が27路線となっている。  
また、発着便数は国際線が週886便、国内線が1日382便となっている。

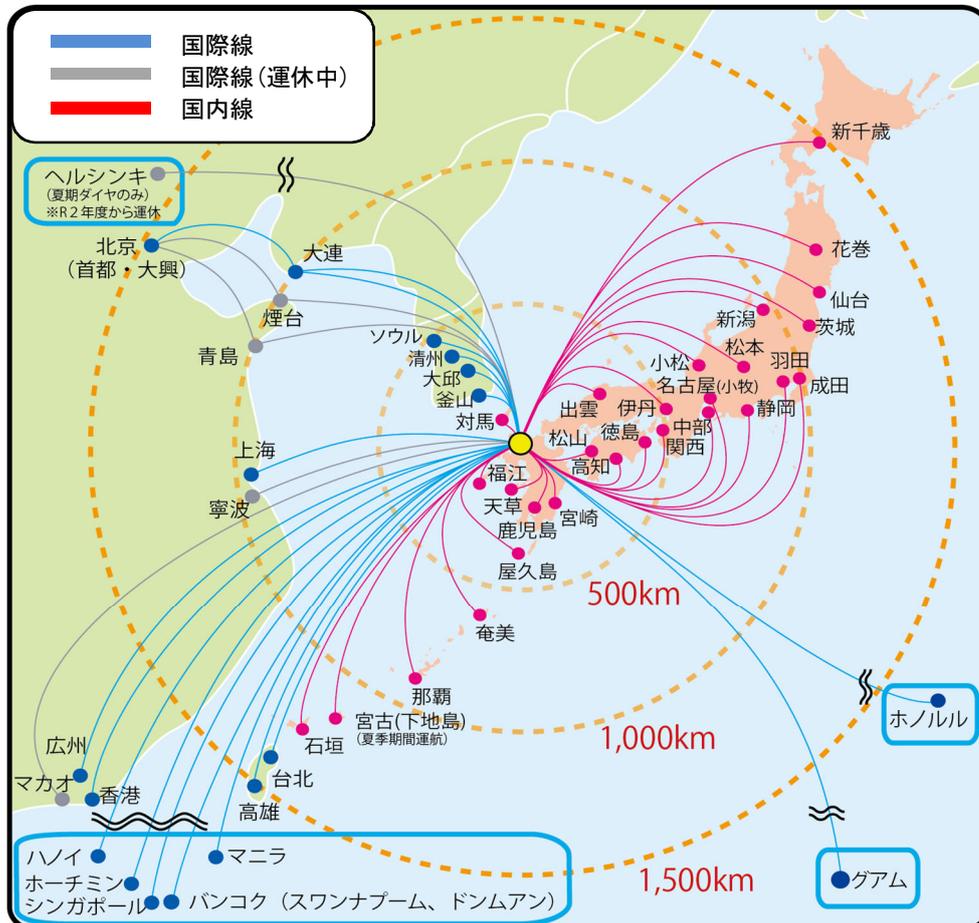
福岡空港の時刻表(9月)を基に福岡市港湾空港局集計

区分	路線数	発着便数	乗入航空会社数	行先
国際線	24 ※運休含む	886 (便/週)	28	プサン テグ チョンジュ シャンハイ ベキン ダイレン ソウル、釜山、大邱、清州、上海、北京、大連、 チンタオ イエンタイ ニンポー コウシュウ ホンコン 青島、煙台、寧波、広州、香港、マカオ、 タイペイ カオシュン 台北、高雄、マニラ、バンコク、ハノイ、 ホーチミン、シンガポール、グアム、ホノルル、 <u>ヘルシンキ</u> ※下線部は時刻表上「運休」 計23都市(8カ国・地域)
国内線	27	382 (便/日)	13	羽田、成田、新千歳、花巻、仙台、新潟、 小松、松本、茨城、静岡、中部、名古屋(小牧)、 関西、伊丹、出雲、松山、徳島、高知、 対馬、福江、天草、宮崎、鹿児島、屋久島、 奄美、那覇、石垣 計27空港

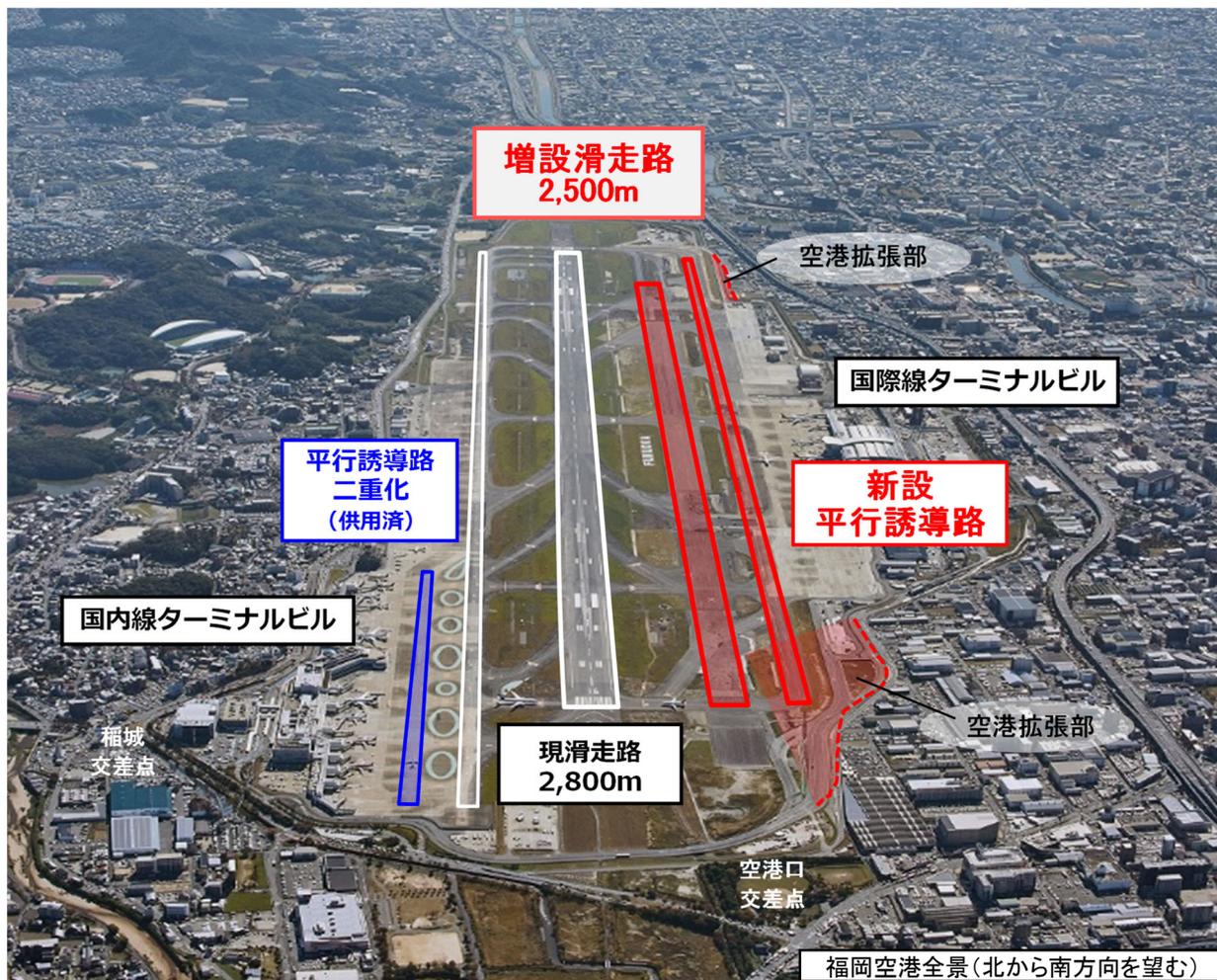
※9月現在、ダイヤ設定のない宮古(下地島)は含まない。

※乗入航空会社については、コードシェアのみの会社を除く。

福岡空港路線図



## 福岡空港の機能強化



航空機混雑を解消するとともに、将来の航空需要に適切に対応するため、滑走路増設事業を実施(令和6年度末供用開始予定)

## 福岡市・福岡国際空港(株)協議会の開催実績（令和6年3月以降）

福岡市は、運営会社との間で、相互の協力と密接かつ持続的な連携により福岡空港及び地域の活性化を図ることを目的として、パートナーシップ協定を締結し、市独自の協議の場(福岡市・福岡国際空港(株)協議会)を設置

開催日・出席者	主 な 協 議 内 容
<p>令和6年3月18日（幹事会）</p> <p>【福岡市】 港湾空港局長、理事、 空港振興部長 他</p> <p>【運営会社】 副社長、経営企画本部長 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市から、市議会における空港関連の主な質疑及び令和6年度予算（案）について説明し意見交換を行った。旅客に比べ回復が遅れている航空貨物の現状と見通しについて、運営会社からは、輸送手段は需要や価格等を踏まえて物流事業者によって選択されており、現在もコロナの影響等を受けている状況ではあるが、旅客便が戻り安定化することで、段階的な回復が期待されるとの説明を受けた。</li> <li>・運営会社から、2024年度～2028年度の中期事業計画（案）と2024年度の単年度事業計画（案）の概要について説明があり、旅客数の目標、施設計画、経営の見通し等について共有された。増設滑走路供用以降についても、改めて安全安心で周辺地域に寄り添った空港運営、利用者の利便性向上、航空路線のさらなる充実強化を進めることなどを確認した。</li> <li>・運営会社から、国内線保安検査場におけるスマートレーンの導入により、混雑はかなり改善されており、今後、国際線側にも同機器を導入するとの報告があった。また、昨年12月に供用開始した国内線南乗降場の利用が進んできたこと、さらに、令和6年4月に現行の約2倍の収容台数となる国内線新立体駐車場が供用開始し、車両混雑緩和が進む見通しとの説明があった。</li> </ul>

開催日・出席者	主な協議内容
<p>令和6年5月28日（幹事会）</p> <p>【福岡市】 港湾空港局長、理事、 空港振興部長 他</p> <p>【運営会社】 副社長、経営企画本部長 他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市から、市議会における空港関連の主な質疑について説明し意見交換を行った。 また、地域が3月に策定した「まちづくりビジョン」の実現に向けて、市と運営会社が連携して、地域を支援していくことを確認した。</li> <li>・運営会社から、2023年度の国際線旅客数及び国際線・国内線旅客数の合計が過去最高を記録したことなどの報告があった。 また、令和6年4月の国内線新立体駐車場の供用開始や国内線保安検査場におけるスマートレーンの導入等により、混雑はかなり解消され、大型連休中も大きな混雑はなかったとの報告があった。</li> <li>・運営会社から、中期事業計画および2023年度決算状況の説明を受け、財務状況については、民間委託以降初の営業利益黒字を達成したが、未だ当期純利益は赤字であり、経営安定化に向けた様々な努力の中で利便性向上なども含め検討を進めていくなどの報告があった。 市から、空港運営は地域の理解と協力で成り立っていることを改めて伝え、今後、増設滑走路の供用、国際線ターミナル増築など、環境が大きく変化するが、引き続き安全安心で周辺地域に寄り添った空港運営の継続を申し入れるとともに、連携して利用者の利便性向上や航空路線のさらなる充実強化を進めることを確認した。</li> <li>・今後も引き続き両者の連携を図っていくことを確認した。</li> </ul>